

■ 令和5年度第2回高田地域まちなか賑わい創出協議会 開催記録

日時:令和5年8月31日(木) 18:30～

場所:会津美里町役場 2階 大会議室

出席者:16名／18名

事務局:6名

1 開会

2 委員長あいさつ

3 前回の振り返りと本日の流れ

A、B、C、3班のグループワーク

4 協議事項

① 第3次総合計画の中での位置づけ、踏まえての高田地域の現状
(事務局より資料により説明)

② 1回目のアンケートの分析
(事務局より資料により説明)

③ グループワーク

A 再確認「あなたが思う“にぎわい”はなんですか？そして、この地域にあって欲しい“にぎわい”はなんですか？」

B その“にぎわい”を創り出すためには、どうしたらいいですか？

C そのためにはどのような機能をもった施設が必要ですか？

④ 各班の発表

〈A班〉

まず、にぎわいを作るために必要なことは町の人たち自分自身が楽しむこと、よそ者を受け入れるという意見が出た。

「にぎわい」とは、①中(町内)で生まれるにぎわい

②外(町外)との交流で生まれる、「にぎわい」がある。

そのにぎわい①を創出するためには、子ども(小中高生)が町の中で集まれる場所が必要である。その場所に子どもたちが集まれば、大人も集まり世代間の交流が生まれる。そのためにはまず、商店街の空き店舗がどういう状況であるかの調査をする必要がある。また、ただ単に集まる施設ではなく、安い値段でたこ焼きだとかたい焼きだとかちよつとした食べたり飲んだりできるとなおい。

にぎわい②を創出するためには、イベントの開催が必要。例えばデコトラ(派手に装飾した車)の展示といったコアな(マニア向け)イベント。また、そこでしか買えない一点物の販売をするイベント、月別でさまざまな作家さんの作品を展示するイベントを開催し、SNS等で発信をして外からの交流を創出する。

やはりまずは、商店街の空き店舗状況を調査し、そこに①のための施設を設置可能かどうか町と相談しながら行っていく必要がある。

〈B 班〉

視点としては、内向きと外向きの視点がある。内向きは地元に住んでいる人、外向きは外の人。

「にぎわい」とは満足度に(にぎわい＝満足)に置き換えられ、まずは住民の人が満足することが大切であり、住民が満足すればにぎわいも創出される。内向きを充実させてから外向きを考えればよい。大々的にお金を使って宣伝するのではなく、地域のもの、内向きの魅力をブラッシュアップすれば、外向きの観光客に対する魅力にもなってくる。御田植祭りの太鼓台を保管し、祭ばやしを練習するような施設にしたり、ガーデニング、クラフトアートなど個人の趣味で行っているものも宣伝していけば、外から観光客を呼び込む「にぎわい」も生まれるのではないかな。

大事なものは長い目で行うこと、子どもや若い世代をターゲットとすること。子どもや若い世代をターゲットにすることで、親も集まり世代間交流ができる。交流が生まれることで住民が満足し、自然とにぎわいも創出される。日常的ににぎわえば、こども食堂等で地域の中でお金が回る仕組みを生み出すことにもつながる。

また、公民館跡地については道の駅のような一つの施設ではなく、小さくてもいいから様々な機能を持った施設のほうがよい。場所を提供し、様々な人がお店をやる。そのお店が継続できなかったとしても、また別の人がその施設で何かをできるような仕組みにすれば、うまく利活用できる。

まずは、どの場所が使えるのかを知らないと具体的な話ができないため、商工会と連携して空き店舗状況を調査にマップに落とし込み、どの場所が使えてどの場所が使えないかを「見える化」する必要がある。

〈C 班〉

まず住んでいる人が行きたいお店、あのお店にはあの商品があるから私はそれを買うに行く、あの店のおばさんに会いに行く、という想像ができるくらいに町の中で情報が浸透していない。高齢者のように昔から町のことを知っている人ならその情報が分かるが、若い人は情報を知らないどころか、商店街に足を踏み入れたことがない。なので、小さなコミュニティを少しずつ作り上げていくことが大切。あの人のお店に行って物を買いたい、お店に行ってあの人と話したい、そういった欲求があるから商店街に行く目的になる。

イオンモールのような商業施設だと、ただ消費するために行くことが目的になってしまい、会話のキャッチボールが生まれない。他の商店街が盛り上がっているのは、きちんとコミュニケーションが取れているからだと思う。

にぎわいを創出するには、人が見えるコミュニティづくりが必要。ただ単に買い物をしにいき、レジで会計するのではなく、お店に行って店主にお金を支払うような、会話ができる買い物の仕方であったり、地元の人が野菜等を販売できる(にぎわいを創出する側に回れる)場所があることで、コミュニティをつくることができる。

そのためにはまず、商店街で気軽に使用できるフリースペース(軒先・お店の端・駐車場・空き地など)はどこなのか洗い出しを行い、そのフリースペースを誰にどのくらいの料金の借用できるのか情報をまとめる必要がある。そうすることで、そのフリースペースで地元の人が取れ過ぎた野菜等を気軽に販売できる仕組みをつくることができる。売る側も買う側も気軽に参加できることが大切。

施設は箱物ではなく、使用しやすいフリースペース、空き店舗を活用できるとよい。ただ単に商品を買うのではなく、そこに行ってあの商品を買うといった流れをつくることが大切である。

⑤ 委員長のまとめ

やはり地域の人が一番メインになるのかと思う。「交流」や「ふれあい」とテーマに、こういうものを展開していけばよいのかを、次回開催の際に意見を出し合えたらと思う。

5 その他

(事務局)

第1回ワークショップを9月29日(金)に、第2回ワークショップを10月26日(木)に開催する。2回のワークショップを経て、10月26日(木)に第3回高田地域まちなか賑わい創出協議会を実施予定。

6 閉会

以上